

## 令和2年度 看護学部3学年シラバス

### <前期>

英語Ⅲ	…P1～7
英語Ⅳ	…P8～13
感染看護学	…P14～19
医療安全学	…P20～25
急性期にある人の看護Ⅰ	…P26～33
急性期にある人の看護Ⅱ	…P34～38
終末期にある人の看護	…P39～45
在宅療養を支える看護	…P46～51
地域看護学Ⅱ（地域看護援助技術）	…P52～59
健康障害をもつ子どもの看護	…P60～66
健康障害をもつ高齢者の看護Ⅱ	…P67～73
精神の健康障害をもつ人の看護	…P74～80
看護研究方法論とその活用	…P81～87

### <後期>

助産学Ⅰ	…P87～93
助産学Ⅲ	…P94～100
急性期にある人の看護学実習	…P101～106
慢性疾患をもつ人への看護学実習	…P107～112
母性看護学実習	…P113～118
健康障害をもつ子どもへの看護学実習	…P119～124
精神の健康障害をもつ人への看護学実習	…P125～130

区分名： コミュニケーション  
 科目名： 英語 3 ( English III )  
 教員名： Tor Duffin (トア ダッフイン)  
 開講年次： 3 年次 学期：2020 年度・前期 選択  
 授業形態：演習, 単位数：1 単位 , 時間数：30 時間

概要：

To help students to develop their overall English ability, whereby they can communicate at an intermediate level.

To give students the confidence to be able to use what skills they learn during the course for future travel or work purposes.

学習目標：

There are vocabulary and grammar sections in each lesson, but the emphasis will be on putting these elements into practice through a variety of listening and speaking activities.

In these activities, students will be encouraged to use the lesson's target structures and expressions to, amongst other things: share opinions and personal experiences; give short descriptions and explanations; make comparisons and suggestions.

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	-	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	-	修得の機会がない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		

		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	-	修得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		

2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	-	修得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		

3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト : World English 2 (Second Edition); NATIONAL GEOGRAPHIC LEARNING / CENGAGE LEARNING.

参考書 : できれば英英辞書。Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English

成績評価方法 : 演習 (40%) + 学期末試験 (60%) = 100%. 学期末試験では、具体的な病気を患うクライアントを想定した看護活動にかんする英文スクリプトを書き、それに基づいたロール・プレイ (10分) 間を実施する。

その他（メッセージ等）：集中授業ですので、最後まで履修するつもりがない学生は受講しないことをおすすめします。

I'm looking forward to meeting you all. I'll be happy to answer any questions you have, so please don't hesitate to ask. Let's enjoy the course together!

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第 1 回	1A: Contrast general & current actions	<b>Vocabulary:</b> Geographical regions <b>Grammar:</b> Simple present vs. present continuous tense
第 2 回	1C: Describe favourite dishes	<b>V:</b> Food staples <b>G:</b> Simple past tense
第 3 回	2A: Talk about personal experiences	<b>V:</b> Culture, communication, gestures <b>G:</b> Present perfect tense
第 4 回	2C: Use small talk to 'break the ice'	<b>V:</b> Starting a conversation <b>G:</b> <i>already; ever; never; yet</i>
第 5 回	3A: Describe your city or town	<b>V:</b> City life <b>G:</b> Future with <i>will</i>
第 6 回	3C: Discuss an action plan	<b>V:</b> Places on a map <b>G:</b> <i>Will + time clauses (before / after)</i>
第 7 回	4A: Discuss ways to stay healthy	<b>V:</b> Parts of the body <b>G:</b> Comparatives, superlatives & equatives
第 8 回	4C: Suggest helpful natural remedies	<b>V:</b> Everyday ailments <b>G:</b> Infinitive of purpose
第 9 回	5A: Talk about facing challenges	<b>V:</b> Physical & mental challenges <b>G:</b> Past continuous vs. simple past tense
第 10 回	5C: Use <i>too/enough</i> to talk about abilities	<b>V:</b> Phrasal verbs <b>G:</b> <i>enough; not enough; too + adjective</i>
第 11 回	6A: Talk about milestones in your life	<b>V:</b> Stages of life <b>G:</b> Present perfect tense + <i>for / since</i>
第 12 回	<b>COURSE REVIEW / TEST</b>	
第 13 回	6C: Use <i>how</i> questions to get more information	<b>V:</b> Adjectives for age <b>G:</b> <i>How + adjective / adverb</i>
第 14 回	7A: Explain how we get luxury items	<b>V:</b> Luxury / import / export items <b>G:</b> Passive voice (present tense)

第 15 回	7C: Discuss what makes life better	<b>V:</b> Past participles of irregular verbs <b>G:</b> Passive voice with <i>by</i>
第 16 回	8A: Use conditionals to talk about real situations	<b>V:</b> Describing animals <b>G:</b> Real conditionals in the future
第 17 回	8C: Describe what animals do	<b>V:</b> Adverbs of manner <b>G:</b> Quantifiers
第 18 回	9A: Discuss life in the past	<b>V:</b> Life in the past <b>G:</b> <i>Used to</i>
第 19 回	9C: Compare today with the past	<b>V:</b> Separable phrasal verbs <b>G:</b> Passive voice in the past
第 20 回	10A: Talk about preparations for a trip	<b>V:</b> Travel preparations <b>G:</b> Expressing necessity
第 21 回	10C: Use English at the airport	<b>V:</b> At the airport <b>G:</b> Expressing prohibition
第 22 回	11A: Discuss career choices	<b>V:</b> Careers & jobs <b>G:</b> Modals for giving advice
第 23 回	<b>COURSE REVIEW / TEST</b>	

区分名：表現力を培う

科目名（英語名称含む）：英語 IV (English IV)

教員名：中山 仁

開講年次：3年次，学 期：2020年度 前期 ， 必修／選択：選択

授業形態：演習 ， 単位数：1単位 ， 時間数：30時間

概要：英語のパラグラフ・ライティングの基礎を習得するための演習を行う。具体的にはパラグラフの基本構造と典型的なライティングのプロセスを理解した上で、身近なテーマについて実際にパラグラフを書く演習を行う。

なお、下記の授業内容は使用テキスト、および、授業進度状況によって予定を変更することがあるが、基本的な履修内容に差異はない。また、必要に応じて英文法の基礎力を維持するための演習を行う。

学習目標：1)英語のパラグラフと、日本語の段落との違いを説明できる。

2)英語の文章をパラグラフ単位で正確に理解できる。

3)論理展開が明確で、適切な英語表現を用いたパラグラフを書くことができる。

4)必要な英語表現を効率よく調べたり、検索したりすることができる。

5)英語の句読法を正しく使える。

#### 学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		

2)	チームでの コミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		

3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					

<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：教室で指示する。

参考書：『ウィズダム英和辞典』（三省堂）、『ジーニアス英和辞典』（大修館）

Longman Dictionary of Contemporary English (Longman)

Oxford Advanced Learner's Dictionary (Oxford University Press)

英辞郎 on the Web

成績評価方法：演習点、定期試験および授業の準備状況、授業への参加度・貢献度等を総合

して評価する。

その他（メッセージ等）：23回の授業を終了した時点で、少なくとも9つのセンテンスから成る1つのパラグラフを作り上げるスキルが段階的に身につくようになるプログラムです。論理の話とは何かを理解すると、日本語表現にも応用できます。英語と日本語の「伝える力」を学ぶ数少ない機会になると思います。

#### 授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	イントロダクション	Formatting; Process writing
第2回	センテンスとパラグラフ(1)	Topic; Strong/Weak paragraph (1)
第3回	センテンスとパラグラフ(2)	Topic; Strong/Weak paragraph (2)
第4回	トピックとトピック・センテンス(1)	Topic sentence (1); Conjunctions
第5回	トピック・センテンス(2)	Topic sentence (2): Skills to improve topic sentences
第6回	サポート(1)	Supporting sentences (1) (Types)
第7回	サポート(2)	Supporting sentences (2) (Exercises)
第8回	結論	Concluding sentences; Capital letters
第9回	導入	Introductory sentences
第10回	プロセス・ライティング(1)	Process writing (1)
第11回	プロセス・ライティング(2)	Brainstorming; Word maps; Listing
第12回	プロセス・ライティング(3)	Organizing; Review; Editing
第13回	性格描写(1)	Adjectives to describe personalities
第14回	性格描写(2)	Paragraph writing exercise
第15回	推敲のためのスキル	Proof reading; Peer reviewing
第16回	因果関係(1)	Cause and effect (1)
第17回	サポート文を改善するスキル	Using English dictionaries
第18回	説明のためのパラグラフ	Enumeration
第19回	比較	Double listing to brainstorm
第20回	因果関係(2)	Cause and effect (2)
第21回	データの説明(1)	Describing data, figures and tables (1)
第22回	データの説明(2)	Describing data, figures and tables (2)
第23回	まとめ	Review Quiz

区分名：看護の基本となる科目

科目名（英語名称含む）：感染看護学（ Infectious Nursing Science ）

教員名： 佐藤 博子

開講年次：3年次，学 期：2020年度 前期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義 ， 単位数：1単位 ， 時間数：15時間

概要：看護専門職業人として働く場は、病院はもとより在宅看護、地域と様々であり質保証として感染看護学は重要である。種々の感染症が流行した場合に対応するための疫学的な視点も求められる。感染防止に関する基礎知識をもとに感染防止に必要な方策を学び、様々な状況に対応するための基盤となる考え方を培う。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

- 学習目標：1) 感染看護学の重要性について説明できる。  
2) 感染管理に関する基礎知識について説明できる。  
3) 病院、施設における感染管理の実際について説明できる。  
4) 様々な状況における感染防止の対策について説明できる。  
5) 感染症対策の法的側面について学びグローバルな視点での感染対策について説明できる。

#### 学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	習得の機会がない。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		

2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		

3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	習得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					

<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	○	態度、習慣、価値観を模倣的に示せることが単位認定の要件である。
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	-	習得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	-	習得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト： 指定しない

参考書： 講義内で提示する

成績評価方法： 授業への参加度とレポート、試験により評価する。

その他（メッセージ等）： 看護の専門性と感染看護についての理解を深め、専門職として基盤となる感染防止に対する知識と行動が行えるように学んでいきましょう。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	感染看護とは	感染看護学の位置づけと学びの目的 職業感染防止への対応
第2回	感染対策	1) スタンダードプリコーション
第3回	感染防止の基礎知識と看護技術	2) 感染経路別予防対策を隔離法
第4回		3) 手洗い
第5回		4) 防護用具 5) 洗浄・消毒・滅菌 6) 検体の取り扱い
第7回	薬剤耐性菌の基礎と感染管理	感染症の原因となる様々な微生物と病院施設での取り組み
第8回	医療施設における感染管理の実際(1)	病院における感染対策チーム(ICT)および感染管理認定看護師(ICN)の活動
第9回	医療施設における感染管理の実際(2)	医療施設における感染対策の事例
第10回	様々な状況における感染状況と対策	訪問看護における感染対策の事例
第11回	感染と看護ケア 公衆衛生における感染症対策	差別と偏見 世界の感染症とパンデミック対策
第12回	まとめ	感染管理の現状と課題

区分名：看護の基本となる科目

科目名（英語名称含む）： 医療安全学 （ Medical safety science ）

教員名： 木下美佐子

開講年次：3年次，学 期：2020年度 前期 ， 必修/選択：必修

授業形態：講義 ， 単位数：1単位 ， 時間数：15時間（60分×12回）

概要：医療の質を高めるために欠かせないのが医療安全の確保である。医療事故の種類や構造、ヒューマンエラー発生のメカニズムについて事例を通して読み解き、医療事故を防止するための基本的な考え方を学ぶ。さらに医療安全に向けた組織的な取り組みを理解し、多職種連携の必要性へ理解を深める。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：医療安全を確保するために、医療事故発生の種類や構造・ヒューマンエラーを学び、事故防止していくために必要な基本的な考え方を修得する。

行動目標

1. 医療安全を学ぶ医療事故の定義と事故発生の要因、構造がわかる。
2. 事故発生のメカニズム、ヒューマンエラーが理解できる。
3. 医療事故に関する法的な責任を理解する。
4. 医療事故防止のための方法、組織的な事故防止対策がわかる。
5. 多職種が連携した医療安全について考えることができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		

		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		

		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		

		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	取得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：指定しない

参考書：河野龍太郎著：医療におけるヒューマンエラー第2版 医学書院

川村治子著：医療安全ワークブック第4版、医学書院

成績評価方法：筆記試験、出席状況、参加態度、レポートを総合して評価する

その他（メッセージ等）： 実際におきた医療事故、看護事故の事例をもとに、医療事故防止に必要な基礎的な知識を学びます。福島県立医科大学医学部附属病院医療安全管理部発行（2020年版）「医療安全ポケットマニュアル」を授業で使います毎回持参のこと。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	医療安全を学ぶ意義	医療安全とは、医療安全の歴史
第2回	医療事故について	医療事故の定義、インシデント報告
第3回	医療事故発生の構造（1）	医療事故発生のメカニズム
第4回	医療事故発生の構造（2）	医療事故の分析
第5回	ヒューマンエラー（1）	ヒューマンエラーとは何か
第6回	ヒューマンエラー（2）	ヒューマンエラーと安全
第7回	医療事故防止対策（1）	環境への働きかけ
第8回	医療事故防止対策（2）	KYT・医療安全研修
第9回	医療安全とチーム	ノンテクニカルスキルとチーム STEPPS
第10回	医療安全と法的責任	医療安全に関連した法律について
第11回	組織的な事故防止対策（1）	組織的な医療安全
第12回	組織的な事故防止対策（2）	リスクマネージャーの役割

区分名：看護実践の基盤となる科目

科目名（英語名称含む）：急性期にある人の看護Ⅰ（Adult Nursing(Acute)）

教員名：片桐和子、佐藤菜保子、菅野久美、脇屋友美子

開講年次：3年次，学 期：2020年度 前期 ，必修／選択：必修選択

授業形態：講義演習 ，単位数：2単位 ，時間数：45時間

概要：急性期にある対象の特徴と看護師の役割を踏まえ、手術療法を受ける対象の周術期看護について学ぶ。看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

一般目標：手術や疾患による健康状態の急激な変化がある人とその家族の身体的・心理的・社会的・スピリチュアル的側面への影響を踏まえ、健康の早期回復と保持・増進を促す援助について理解し、看護の実際について体験学習する。

行動目標：

1. 急性期・周術期看護の特徴について述べることができる。
2. 麻酔や手術による生体への侵襲について述べることができる。
3. 手術を受ける人とその家族の身体・精神・社会・スピリチュアル的側面への影響について述べることができる。
4. 手術室看護の役割について述べることができる。
5. 手術を受ける人とその家族の特徴を踏まえ、その人の機能回復・合併症予防・苦痛緩和、及び、家族を含めた心理・社会的支援のために必要な援助について述べることができる。
6. ドレーン管理、術直後の観察の実技演習を通して、根拠を踏まえて必要な援助技術を行い、自己の体験を振り返ることができる。
7. 手術や麻酔による侵襲を受けた人の事例のグループワークを通して、必要なケアプランを考え、その一貫性・妥当性・具体性について検討しあい、看護に必要な基本的な知識を整理できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬

		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		的に示せることが単位認定の要件である。
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	同上
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	同上
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	同上
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基礎となる態度、ス

	とのコミュニケーション	②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		キルを示せることが単位認定の要件である
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	同上
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)		①	社会の理解を深める科目	○	同上

	創造性豊かな看護専門職者	②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	○	同上
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である。
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		

		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：特に指定しない。

参考書：授業時に提示する。

成績評価方法：講義・演習への参加度、課題提出物、出席状況、定期試験結果により評価する。

その他（メッセージ等）：1、2年次で学習した内容を基盤に、発展させていく授業展開となります。しっかり学んだことを復習して臨んでください。また、演習に向けて課題を提示しますので、事前学習を踏まえて演習に臨んでください。

3年後期の実習に繋がる重要な科目になります。疑問点など質問したり、文献を通して理解を深め、主体的に学習していく習慣を確立していくことが大切になります。

#### 授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	急性期の概念、急性期の特徴	急性期にある患者・家族の特徴と看護師の役割
第2回	周術期の看護：術前	手術を受ける患者・家族の特徴、術前看護、周術期オリエンテーション、周術期リハビリテーション
第3回	周術期の看護：術前	術前アセスメント
第4回	手術と麻酔の侵襲	侵襲、手術や麻酔の侵襲による神経・内分泌・代謝反応、サードスペース、サイトカインによる生体反応、SIRS、Mooreの回復過程、
第5回	手術と麻酔の侵襲	侵襲、手術や麻酔の侵襲による神経・内分泌・代謝反応、サードスペース、サイトカインによる生体反応、SIRS、Mooreの回復過程、
第6回	周術期の看護：術中	手術室看護師の役割、術前訪問、手術室環境管理、消毒法、術中体位、体温管理など
第7回	周術期の看護：術中	全身麻酔、局所麻酔、麻酔を受ける人の看護
第8回	周術期の看護：術後	術後の患者・家族の特徴、術後の機能回復・合併症予防（後出血とショック）
第9回	周術期の看護：術後	術後の機能回復・合併症予防（縫合不全、深部静脈血栓症、呼吸器合併症など）、苦痛緩和、心理・社会的支援
第10回	周術期の看護：術後	術後の患者・家族の特徴、術後の機能回復・合併症予防、苦痛緩和、心理・社会的支援
第11回	手術により健康状態が急激に変化する人の看護（1）	肺切除術を受ける人の看護：開胸術により呼吸機能が変化する患者及び家族の特徴、気道の清浄化、呼吸機能の維持・改善のための援助、ドレナージ、肩

		関節硬縮予防
第12回	急激に変化する人の看護（1）	肺切除術を受ける人の看護：開胸術により呼吸機能が変化する患者及び家族の特徴、気道の清浄化、呼吸機能の維持・改善のための援助、ドレナージ、肩関節硬縮予防
第13回	急激に変化する人の看護（1）	肺切除術を受ける人の看護：開胸術により呼吸機能が変化する患者及び家族の特徴、気道の清浄化、呼吸機能の維持・改善のための援助、ドレナージ、肩関節硬縮予防
第14回	手術により健康状態が急激に変化する人の看護（2）	胃切除術を受ける人の看護：摂取機能の低下に対する援助、ダンピング症候群の予防と対処、縫合不全の早期発見と対処、食スタイルの変化に伴う辛さ・食の楽しみを考慮した援助
第15回	手術により健康状態が急激に変化する人の看護（2）	胃切除術を受ける人の看護：摂取機能の低下に対する援助、ダンピング症候群の予防と対処、縫合不全の早期発見と対処、食スタイルの変化に伴う辛さ・食の楽しみを考慮した援助
第16回	手術により健康状態が急激に変化する人の看護（2）	胃切除術を受ける人の看護：摂取機能の低下に対する援助、ダンピング症候群の予防と対処、縫合不全の早期発見と対処、食スタイルの変化に伴う辛さ・食の楽しみを考慮した援助
第17回	手術により健康状態が急激に変化する人の看護（3）	大腸切除術を受ける人の看護：排泄に伴う羞恥心や自尊心、性功能障害を考慮した援助、イレウス予防・改善のための援助、ストマケア
第18回	手術により健康状態が急激に変化する人の看護（4）	乳房切除術を受ける人の看護：上肢リンパ浮腫予防・緩和、関節可動域障害の予防、ボディイメージの変容に対する援助、セクシュアリティに関する援助
第19回	手術により健康状態が急激に変化する人の看護（4）	手術体験者の語り 入院中に看護師に依頼したいこと、退院後の生活上の困難点、がんサバイバー、
第20回	術後ドレーンを挿入している人の看護	ドレーンの目的・方法・種類、ドレーンを挿入している人の特徴及び援助
第21回	術後期の看護：演習（2）	術後患者のアセスメント
第22回	術後期の看護：演習	術後患者のアセスメント

	(2)	
第23回	周術期の看護：演習 (2)	術後患者のアセスメント
第24回	周術期の看護：演習 (3)	ドレーン管理の実際
第25回	周術期の看護：演習 (3)	ドレーン管理の実際
第26回	周術期の看護：演習 (3)	ドレーン管理の実際
第27回	周術期の看護：演習 (4)	肺切除後のケーススタディ
第28回	周術期の看護：演習 (4)	肺切除後のケーススタディ
第29回	周術期の看護：演習 (4)	肺切除後のケーススタディ
第30回	周術期の看護：演習 (4)	肺切除後のケーススタディ
第31回	周術期の看護：演習 (4)	肺切除後のケーススタディ
第32回	周術期の看護：演習 (4)	肺切除後のケーススタディ
第33回	周術期の看護：演習 (4)	肺切除後のケーススタディ
第34回	周術期の看護：演習 (4)	肺切除後のケーススタディ
第35回	周術期の看護：演習 (4)	肺切除後のケーススタディ

区分名： 看護実践の基盤となる科目

科目名(英語名称含む)：急性期にある人の看護Ⅱ(Critical Care and Emergency Nursing )

教員名： 菅野久美・佐藤菜保子・脇屋友美子・片桐和子

開講年次：3年次，学 期：2020年度 前期 ，必修/選択：必修

授業形態：講義，単位数：1単位 ，時間数：12時間

概要：

救急医療における対象の特徴と看護の役割について学習するとともに、フィジカルアセスメントや救急処置などの基本的知識や技術を修得し、生きる(生命と生活)を支える救急看護について考えを深める。看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

(一般目標)

1. 救急患者および生命の危機状況にある人やその家族の体験を理解する。
2. 救急医療体制の変遷と現状を学習し、看護の役割を理解する。
3. フィジカルアセスメントやファーストエイドなどの基本的知識や技術、態度について学習する。
4. 救急医療および看護の場面での課題を学習する。

(行動目標)

1. 救急医療の現状とその問題を説明できる。
2. 救急患者および生命の危機状況にある患者とその家族の特徴を説明できる。
3. ファーストエイドとしての一次救命処置：Basic Life Support(BLS)や応急手当てについてその技術を習得できる。
4. 災害時の救急医療およびトリアージの基本的な考え方について説明できる。
5. 救急医療および看護の場面における課題について関心持ち、自己の考えを深めてその内容を述べるができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	同上

		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	同上
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	同上
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	態度、習慣、価値観を模倣的に示せることが単位認定の要件である。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	実践の基盤となる知識と技術を統合させた実践の修得の機会がある。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		

4. 知識とその応用				
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。				
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。 (学部コースツリー参照)	
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●
		②	倫理性を高める科目	
		③	論理的思考能力を高める科目	
		④	表現力を培う科目	
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●
		②	人間の理解を深める科目	
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目	
		④	看護の基本となる科目	
		⑤	看護実践の基盤となる科目	
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	△
		②	看護の実践	
		③	看護を統合する科目	
5. 看護の実践				
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。				
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	○
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。	
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。	
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。	

		⑤	安全で効果的なケアを探索し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	-	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト： 特に指定なし

参考書： 授業時に提示する

成績評価方法： 講義・演習への参加度、課題提出物、出欠状況、定期試験結果により評価する。

その他（メッセージ等）： 学生が主体的に考え、知識・技術を修得し、積極的に学びとる授業です。特に演習は重要となりますので、積極的に参加してください。

授業内容(学習項目)

回数	日時	項目	内容
第1回	4/16(木) I 8:40~9:40	救急看護の概念と 基本となる技術	救急医療の変遷、救急看護の概念と対象者の特徴 基本を学ぶ (菅野)
第2回	4/16(木) II 9:50~10:50	救急患者への対応① 救急看護の概念と 基本となる技術	対象者の理解とフィジカルアセスメント BLS およびファーストエイド救急技術を学ぶ (菅野)
第3回	4/16(木) III 11:00~12:00	救急患者への対応②	小児救急看護 (鈴木学而先生)
第4回	4/23(木) I 8:40~9:40	救急患者への対応③	対象者のフィジカルアセスメント BLS およびファーストエイド救急技術を学ぶ (菅野)
第5回	4/23(木) II 9:50~10:50	演習：1 BLS 演習：2 小児救急	BLS および応急処置や救急技術を学ぶ。 (脇屋先生および担当教員)
第6回	4/23(木) III 11:00~12:00	演習：1 BLS 演習：2 小児救急	BLS および応急処置や救急技術を学ぶ (脇屋先生および担当教員)
第7回	4/30(木) I 8:40~9:40	救急看護の実際①	災害時の救急看護およびトリアージ (菅野)
第8回	4/30(木) II 9:50~10:50	救急看護の実際②	救命救急センター看護師によるプレホスピタル ケア、フライトナースの役割、院内救急 (宮崎看護師)
第9回	4/30(木) III 11:00~12:00	救急看護の実際③	救命救急センター看護師によるプレホスピタル ケア、フライトナースの役割、院内救急 (宮崎看護師)
第10回	5/7(木) I 8:40~9:40	救急看護の実際④	事例を通して救急看護について学ぶ (菅野)
第11回	5/7(木) II 9:50~10:50	救急看護に関する法 律や倫理②	救急・集中ケアにおける終末期看護 救急看護に関連する法律や倫理 (菅野)
第12回	5/7(木) III 11:00~12:00	特別講義	救命救急看護について学ぶ (脇屋先生)

区分名： 看護実践の基盤となる科目

科目名（英語名称含む）：終末期にある人の看護（End-of-life care）

教員名：井上水絵、横山郁美、菅野久美、三浦浅子、他

開講年次：3年次，学 期：2020年度 前期 ，必修/選択：必修

授業形態：講義・演習 ，単位数：2単位 ，時間数：30時間

概要：看護師には終末期にある患者とその家族についてのケアが求められている。この科目においては、終末期にある患者と家族の理解を深め、その人らしい生を全うできるような支援を行うための看護について学習する。また、人間の生死について自分なりの考えを深めるとともに、他の人の考え方や価値観を尊重できる態度を養う。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

（一般目標）

1. 終末期にある患者とその家族が直面する諸問題や体験について理解する。
2. 終末期にある人の看護を実践する上で必要な知識、技術、態度について学習する。

（行動目標）

1. 終末期医療に関する概念（ターミナルケア、ホスピスケア、緩和ケア）について説明できる。
2. 死に向かう人々の心理過程と悲嘆プロセス、死別後の家族の悲嘆プロセスについて説明できる。
3. 終末期にある患者とその家族が体験する身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな苦痛を説明できる。
4. 終末期に出現する症状と症状緩和の方法について説明できる。
5. 終末期にある人の看護における看護の役割を述べることができる。
6. 終末期にある患者とその家族を支えるための保健医療システムや社会資源について説明できる。
7. 学習のプロセスを通し自分の死生観について述べることができる。
8. 終末期にある人の看護に関する文献を読みテーマをあげて自分の考えを記述することができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム	科目達成レベル
1. プロフェッショナル	

看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	同上
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を		

			認識し、自ら必要な学習)により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観を	①	感性を高める科目	-	修得の機会がない

	もつ看護専門職者	②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		

		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：指定しない

参考書：

1. 梅田恵、射場典子編集：緩和ケア 大切な生活・尊厳ある生をつなぐ技と心. 南山堂. 2011
2. 鈴木志津枝、内布敦子編集：緩和ケア・ターミナルケア看護論. スーベルヒロカワ. 2011
3. 佐藤禮子監修：絵で見るターミナルケア 人生の最後を生き抜く人へのかぎりない援助. GAKKEN. 2010
4. 嶺岸秀子、千崎美登子編著：がん看護の実践1 エンドオブライフケアのがん緩和ケアと看取り. 医歯薬出版社. 2008

成績評価方法：出席、課題、試験により総合的に判断する

その他（メッセージ等）：人間の生や死に着いて学ぶことを通して自分なりの死生観について考えを深めて下さい。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1-2回	終末期医療に関する概念・歴史・現状	緩和ケアの歴史、定義、死生観、わが国の緩和ケアの現状、様々な場における終末期ケア
第3-4回	終末期にある患者と家族の看護（1）	トータルペイン（全人的苦痛）、死にゆく人の心理・悲嘆経過、家族の悲嘆経過とそのケア
第5-6回	終末期にある患者と家族の看護（2）	がん看護専門看護師の役割（患者・家族・遺族ケア）、看護師への教育（1）
第7-8回	終末期にある患者と家族の看護（3）	がん看護専門看護師の役割（患者・家族・遺族ケア）、看護師への教育（2）
第9-10回	終末期にある患者と家族の看護（4）	代替補完療法、一般病棟での看取り
第11-12回	終末期にある患者と家族の看護（5）	終末期にある非がん患者の看護
第13-14回	在宅療養患者および家	在宅緩和ケア・在宅での緩和ケアの実際

回	族の終末期にある人の看護	
第 15-16 回	終末期にある患者と家族の看護 (6)	リンパ浮腫、リンパ浮腫を持つ人への看護
第 17-18 回	終末期にある患者と家族の看護 (7)	終末期における看護師の役割と患者の様相
第 19-21 回	終末期にある患者と家族の看護 (8)	リンパ浮腫、リンパ浮腫を持つ人への看護
第 22-23 回	終末期にある患者と家族の看護 (9)	緩和ケア病棟におけるチーム医療

区分名：看護実践の応用となる科目

科目名（英語名称含む）：在宅療養を支える看護（Home Care Nursing）

教員名：高橋香子，秦暁子

開講年次：3年次，学 期：2020年度 前期 ， 必修／選択：必修

授業形態：演習 ， 単位数：2単位 ， 時間数：60時間

概要：在宅療養者とその家族の生活および健康課題について理解し、さらに在宅療養を支える保健医療福祉等の法制度、ケアシステムについて学ぶ。また、在宅看護の特徴と機能を理解するとともに、在宅療養支援の方法、継続看護と退院支援、チームケアの重要性について学び、在宅ケアにおける看護職の役割について探求する。

保健師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：1)在宅ケアに関連する概念、在宅看護の機能について説明できる。

2)在宅療養を支える社会資源と多職種協働について説明できる。

3)在宅療養者とその家族への支援の必要性とその方法について説明できる。

4)在宅看護技術について実施上の要点を説明することができる。

5)退院支援と継続看護の意義、看護職の役割について説明できる。

6)在宅看護の質の評価、在宅看護管理について説明できる。

#### 学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)		①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	●	実践の基盤となる知識

	チームでのコミュニケーション	②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		を示せることが単位認定の要件である
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	〃
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践	①	看護実践の応用となる科目	○	模擬的な場に知識を応

	能力を備えた看護専門職者	② 看護の実践		用できることが単位認定の要件である
		③ 看護を統合する科目		
5. 看護の実践				
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。				
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	① 人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。		● 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		② 人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③ 人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④ 健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤ 安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥ 看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦ 看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧ 地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献				
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。				

(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：指定しない。

参考書：開講時に提示する。

成績評価方法：出席状況、授業への参加度、課題レポート、期末レポートにより総合的に評価する。

その他（メッセージ等）：在宅療養者・家族の立場に立ってどうすべきかを考え、積極的に授業に参加すること。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1-3回	在宅看護の目的と法制度	在宅ケア、在宅看護、地域包括ケア
第4-6回	在宅療養者と家族への支援	在宅療養者の生活、健康課題、家族の介護力
第7-9回	在宅看護過程	在宅看護における情報収集・計画立案・実施・評価
第10-12回	医療依存度の高い療養者への看護	在宅療養者の医療ニーズ、訪問看護の実際
第13-16回	在宅における援助技術(1)	在宅看護における主な援助技術
第17-19回	在宅における援助技術(2)	在宅看護技術の実際
第20-23回	在宅における援助技術(3)	口腔ケア・吸引
第24-27回	在宅における援助技術(4)	洗髪
第28-30回	在宅における援助技術(5)	在宅酸素療法と看護職の役割
第31-33回	在宅ケアマネジメントと関係機関・職種との連携(1)	ケアマネジメント、社会資源、他職種との協働
第34-36回	在宅ケアマネジメントと関係機関・職種との連携(2)	在宅療養を支える歯科医師の役割
第37-39回	在宅ケアマネジメントと関係機関・職種との連携(3)	在宅療養を支える薬剤師の役割
第40-42回	在宅ケアマネジメントと関係機関・職種との連携(4)	退院支援、退院調整、継続看護
第43-45回	在宅看護管理	在宅看護管理、在宅看護の質の評価

区分名：看護実践の応用となる科目（地域看護援助技術）

科目名（英語名称含む）：地域看護学2（地域看護援助技術）【看護3】

教員名：古戸順子, 阿久津和子他

開講年次：3年次, 学 期：2020年度 前期 , 必修/選択：必修

授業形態：講義・演習 , 単位数：2単位 , 時間数：45時間

概要：地域看護活動の基本である健康診査, 保健指導, 健康相談, 家庭訪問などの健康の保持増進, 疾病予防のための支援方法・支援技術について学習する。さらに、発達段階の特性に応じて乳幼児, 母子, 成人, 高齢者を対象とした地域看護活動, および健康障がいの特性に応じた障がい（精神障がい含む）, 難病, 感染症の保健福祉活動について学習する。

保健師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

- （一般目標）
1. 地域看護活動の原則について理解する。
  2. 発達課題の特性に応じた地域看護活動について学ぶ。
  3. 健康障がいの特性に応じた地域看護活動について学ぶ。
  4. 健康保持増進および疾病予防のための支援方法について学ぶ。
- （行動目標）
1. 地域看護活動の基本について述べられる。
  2. 地域看護活動の特徴について説明できる。
  3. 対象の発達段階の特性に応じた健康課題を述べられる。
  4. 対象の発達段階の特性に応じた地域看護の展開方法について説明できる。
  5. 対象の健康障がいの特性に応じた地域看護の展開方法について説明できる。
  6. 対象の発達段階と健康課題に対応した保健福祉行政の政策や施策について述べられる。
  7. 地域看護活動の援助方法・援助技術について説明できる。
  8. 対象の発達段階と健康課題に対応した援助技術(家庭訪問)を実施できる。
  9. 演習のグループ活動では, 他のメンバーと議論を行ない, 協調することができる。
  10. 演習は, 事前と事後の自己学習を行ない, 自主的な態度で参加することができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム	科目達成レベル
1. プロフェッショナル	

看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を積極的に示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		

		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	修得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	○	模擬的な場で実践できることが単位認定の要件である
		②	<del>看護の実践</del>		
		③	<del>看護を統合する科目</del>		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		

		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					

1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：荒賀直子・後閑容子編：公衆衛生看護学. jp 第4版データ更新版. インターメディアカル. 2017

参考書：宮崎美砂子・北山三津子・春山早苗・田村須賀子編：最新公衆衛生看護学第2版総論 日本看護協会出版会

宮崎美砂子・北山三津子・春山早苗・田村須賀子編：最新公衆衛生看護学第2版各論1 日本看護協会出版会

宮崎美砂子・北山三津子・春山早苗・田村須賀子編：最新公衆衛生看護学第2版各論2 日本看護協会出版会

標美奈子他：標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論 医学書院

標美奈子他：標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 医学書院

標美奈子他：標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院

成績評価方法：出席日数、講義・演習の取り組み態度、筆記試験、課題提出物等の総合評価

その他（メッセージ等）：これまでの地域看護の学びを統合し、創造的に学びを深め、実践力となる基礎を習得しましょう。

#### 授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	地域看護活動の原則と実際1 [目的と機能]	地域看護の定義，看護の目的
第2回	地域看護活動の原則と実際2 [地区活動と地区把握]	地域看護活動の特徴，地区を知る
第3回	地域看護活動と援助技術1 [保健師が行う援助技術の特徴]	地域看護活動，保健師活動技術の特徴
第4回	地域看護活動と援助技術2 [健康相談・家庭訪問]	健康相談・家庭訪問の定義，目的，方法，およびその実際
第5回	地域看護活動と援助技術3 [健康診査]	健康診査の定義，目的，およびその実際
第6回	地域看護活動と援助技術4 [健康教育・保健指導]	健康教育・保健指導の定義，目的，およびその実際
第7回	地域看護活動と援助技術5	住民グループ支援の目的，グループ発

	[住民グループ支援]	展のプロセス
第 8 回	地域看護活動と援助技術 6 [住民グループ支援の実際]	住民グループ支援の実践例
第 9 回	発達段階の特性に応じた地域看護活動 1 [母子保健福祉活動]	親（母）と子ども，保健福祉政策・施策
第 10 回	発達段階の特性に応じた地域看護活動 2 [母子保健福祉活動]	親（母）と子ども，心理，地域看護活動
第 11 回	発達段階の特性に応じた地域看護活動 3 [母子保健福祉活動の実際]	乳幼児の発達、健康診査の実際、母子への保健指導
第 12 回	発達段階の特性に応じた地域看護活動 4 [母子保健福祉活動の実際]	妊娠期からの切れ目のない母子保健対策の実際、支援技術
第 13 回	発達段階の特性に応じた地域看護活動 5 [乳幼児のいる家庭への訪問]	乳幼児の発達，家庭環境，乳幼児の家庭訪問の意義
第 14 回	発達段階の特性に応じた地域看護活動 6 [乳幼児のいる家庭への訪問]	乳幼児のいる家庭への訪問，支援技術
第 15 回	演習：家庭訪問 オリエンテーション	
第 16 回	演習：家庭訪問（1）	
第 17 回	演習：家庭訪問（2）	
第 18 回	演習：家庭訪問（3）	
第 19 回	演習：家庭訪問（4）	
第 20 回	演習：家庭訪問（5）	
第 21 回	演習：家庭訪問（6）	
第 22 回	発達段階の特性に応じた地域看護活動 7 [成人保健福祉活動]	成人，保健福祉政策・施策，地域看護活動
第 23 回	発達段階の特性に応じた地域看護活動 8 [生活習慣病予防活動の実際]	生活習慣病，予防，地域看護活動
第 24 回	発達段階の特性に応じた地域看護活動 9 [高齢者保健福祉活動]	高齢者，保健福祉政策・施策，地域看護活動
第 25 回	発達段階の特性に応じた地域看護活動 10 [介護予防活動の実際]	介護予防，高齢者の QOL，地域看護活動
第 26 回	発達段階の特性に応じた地域看護活動 11 [認知症対策の実際]	認知症，家族，心理，地域看護活動
第 27 回	健康障がいの特性に応じた地域看護活動 1 [障がい児（者）保健福祉活動]	地域，障がい児（者），保健福祉政策・施策

第 28 回	健康障がいの特性に応じた地域看護活動 2 [障がい児（者）保健福祉活動]	障がい児（者），家族，心理，地域看護活動
第 29 回	健康障がいの特性に応じた地域看護活動 3 [難病保健福祉活動]	地域，難病，保健福祉政策・施策
第 30 回	健康障がいの特性に応じた地域看護活動 4 [難病保健福祉活動]	難病患者，家族，心理，地域看護活動
第 31 回	健康障がいの特性に応じた地域看護活動 5 [感染症に対する保健活動]	感染症，保健政策・施策
第 32 回	健康障がいの特性に応じた地域看護活動 6 [感染症に対する保健活動]	感染症発症予防，発生時の対応，地域看護活動
第 33 回	健康障がいの特性に応じた地域看護活動 7 [精神保健福祉活動]	地域，精神障がい，保健福祉政策・施策
第 34 回	健康障がいの特性に応じた地域看護活動 8 [精神保健福祉活動]	精神障がい者，家族，心理，地域看護活動
第 35 回	まとめ（様々な健康レベルに応じた地域看護活動の意義と方法）	

区分名：看護実践の応用となる科目

科目名（英語名称含む）：健康障害をもつ子どもの看護（Nursing Care for Children）

教員名：和田久美子，古溝陽子，鈴木学爾，女池朝子，金澤久美，その他

開講年次：3年次，学期：2020年度 前期 ，必修／選択：必修

授業形態：講義／演習 ，単位数：3単位 ，時間数：60時間

概要：新生児期から青年期（思春期）にある対象者とその家族について理解し、子どもの発達段階と健康レベルに応じた看護援助を行える知識、技術を学ぶ。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

1. 新生児期、乳児期、幼児期、学童期、青年期（思春期）という成長発達の特徴を健康と生活の視点から説明できる。
2. 子どもの権利を理解し、子どもやその家族を個として尊重することの意味を説明できる。
3. さまざまな発達段階と健康レベルにある子どもと家族に対して、その状況に応じた看護援助を説明できる。
4. 小児保健・医療・福祉・教育の中における小児看護の役割を説明できる。
5. 専門職業人としての態度を習得する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		

		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		位認定の要件である
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	習得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	習得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		

		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	習得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		

		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	習得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	習得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：随時提示する

参考書：随時提示する

成績評価方法：課題、試験等を合わせて評価する。

その他（メッセージ等）：「成長発達に合わせた健康の維持・増進に関する看護Ⅰ・Ⅱ」で学んだ、子どもの発達段階の特徴について復習して臨んで下さい。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	オリエンテーション 小児看護の理念	オリエンテーション 小児看護の対象(子どもと家族)
第2回	小児看護の理念	子どものセルフケア能力、子どもの権利
第3回	子どもの健康障害と看護	子どもを取り巻く社会、小児医療と小児看護の現状
第4回	医療を体験する子どもの看護	健康障害が子どもに与える影響、プレパレーション、 インフォームド・アセント
第5回	小児の健康障害①	感染症
第6回	小児の健康障害②	
第7回	症状と看護①	発熱、嘔吐
第8回	症状と看護②	下痢、脱水
第9回	小児の健康障害③	アレルギー疾患
第10回	小児の健康障害④	リウマチ性疾患、神経疾患
第11回	症状と看護③	呼吸困難、けいれん
第12回	症状と看護④	痛み
第13回	小児の健康障害⑤	新生児疾患、染色体異常
第14回	小児の健康障害⑥	内分泌疾患、代謝性疾患
第15回	子どものヘルスアセスメント	成長発達への影響、子どもとのコミュニケーション、 身体計測、バイタルサイン測定
第16回	検査処置を受ける子どもの看護	子どもとの関わり方、採血、経口与薬、末梢静脈内 点滴
第17回	子どものヘルスアセスメントの技術 (演習①)	バイタルサイン測定、身体計測、更衣、おむつ交換
第18回	子どものヘルスアセスメントの技術 (演習①)	
第19回	ハイリスク新生児の看護	ハイリスク新生児の特徴、家族への影響、 早産・低出生体重児、先天性疾患
第20回	ハイリスク新生児の看護	
第21回	ハイリスク新生児の看護	
第22回	子どもの吸入時の看護(演習②)の準備 (GW)	子どもの状態観察・与薬時の看護
第23回	演習②の準備(GW)	
第24回	小児の健康障害⑦	循環器疾患

第 25 回	小児の健康障害⑧	消化器疾患
第 26 回	演習②の準備 (GW)	子どもの状態観察・与薬時の看護
第 27 回	演習②の準備 (GW)	
第 28 回	健康障害をもつ子どもの看護	慢性疾患、子どもの療養環境、継続看護
第 29 回	健康障害をもつ子どもの看護	
第 30 回	子どもの吸入時の看護 (演習②)	子どもの状態観察・吸入時の看護
第 31 回	子どもの吸入時の看護 (演習②)	
第 32 回	演習②のまとめ (GW)	演習②の振り返りと共有
第 33 回	演習②のまとめ (発表)	
第 34 回	演習②のまとめ (発表)	
第 35 回	演習②のまとめ (発表)	
第 36 回	手術を受ける子どもの看護	多期的手術、麻酔の特徴、成長発達への影響
第 37 回	手術を受ける子どもの看護	
第 38 回	小児の健康障害⑨	血液・腫瘍疾患
第 39 回	小児の健康障害⑩	腎・泌尿器疾患
第 40 回	障がいをもつ子どもの看護	子どもの障がいの特徴
第 41 回	障がいをもつ子どもの看護	重症心身障害
第 42 回	成人への移行期にあるひとへの看護	移行期医療、意思決定支援、ライフイベントに応じた支援
第 43 回	発達障害をもつ子どもの看護	発達障害
第 44 回	子どもの虐待と看護	虐待の要因・発見、虐待を受けた子どもと家族への対応
第 45 回	終末期にある子どもの看護	子どもの死の概念、子どもを看取る家族の看護、グリーフケア

区分名：看護実践の応用となる科目

科目名（英語名称含む）：健康障害をもつ高齢者の看護Ⅱ（ Gerontological NursingⅡ ）

教員名：坂本 祐子，齋藤 史子，佐々木 千佳，杉本 幸子

開講年次：3年次，学 期：2020年度前期 ，必修

授業形態：講義・演習 ，単位数：2単位 ，時間数：45時間

概要：

加齢に伴う変化と高齢者特有の健康障害が生活に及ぼす影響について理解し、Quality of Lifeの向上を目指した効果的な看護援助の実際について学ぶ。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

1. 高齢者特有の健康障害の成り立ちと生活への影響について理解する。
2. 高齢者の健康障害に特徴に適した援助方法について理解する。
3. 認知症と認知機能障害が高齢者の生活に与える影響について理解する。
4. 高齢者の生活を支援する社会資源について理解する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	●	実践の基盤となる知識を示

				せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。	
2. 生涯学習				
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。				
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。	
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。	
3. 人間関係の理解とコミュニケーション				
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。				
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。	
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。	
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。	
2)		①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△
				修得の機会があるが、単位認定に関係ない
				実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
				修得の機会があるが、

	チームでの コミュニケーション	②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		単位認定に 関係ない
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	修得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		

2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：

- 鳥羽 研二，他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論，第5版。医学書院（2019年度購入済）
- 北川 公子，他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学 第9版，医学書院（2019年度購入済）

参考書：

- 奥宮暁子編：ウェルネスの視点にもとづく老年看護過程第2版。医歯薬出版株式会社
- 山田 律子編：生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図 第3版，医学書院
- 正木 治恵編：パーフェクト臨床実習ガイド 老年看護 第2版，照林社

成績評価方法：全講義数の3分の2以上出席した学生が成績評価の対象となる。

評価は、筆記試験と講義中提示する課題（事例検討）を対象とし、各々の配点は筆記試験80点、事例検討20点とする。

その他：4年次生「高齢者への看護学実習」と並行開講のため教員への質問は、オフィス・アワーやメールを活用してください。

坂 本：毎週火曜日 12：00～13：00

齋 藤：毎週月曜日 12：15～13：00

佐々木：原則毎週水曜日 12：15～13：00（研究室前の予定表確認のこと）

杉 本：毎週水曜日 12：15～13：00（5/13,20,27 6/3 を除く）

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第 1 回	コースオリ，復習	
第 2 回	健康逸脱から回復を促す看護① 呼吸器疾患	肺炎，誤嚥性肺炎，COPD
第 3 回	事例検討①	事例検討の進め方，高齢者における看護過程
第 4～6 回	高齢者の生活機能を整える看護① 排泄機能障害	排泄機能，尿失禁，過活動膀胱 前立腺肥大，排泄のアセスメント 排便機能，排便障害
第 7 回	健康逸脱から回復を促す看護②	骨折，骨粗鬆症，廃用症候群
第 8 回	骨折・骨粗鬆症・廃用症候群の予防	
第 9 回	高齢者の生活機能を整える看護② 転倒予防 1	高齢者の基本的活動 転倒のアセスメント
第 10 回	高齢者の生活機能を整える看護② 転倒予防 2	転倒発生時の対応，転倒後のケア 再発防止
第 11 回	事例検討②	高齢者のアセスメント
第 12 回	事例検討③	
第 13 回	高齢者の生活機能を整える看護③ 感覚器	難聴，白内障
第 14 回	健康逸脱から回復を促す看護③ 疼痛，搔痒感	痛みのアセスメント，皮膚搔痒症
第 15 回	健康逸脱から回復を促す看護④ 感染症	尿路感染症，疥癬，白癬，胃腸炎
第 16 回	治療を必要とする高齢者の看護① 薬物療法	薬物動態の変化，薬物有害事象
第 17 回	治療を必要とする高齢者の看護② 手術療法	早期離床，術後せん妄
第 18 回	治療を必要とする高齢者の看護③ リハビリテーション	ICF，生活リハビリテーション

第 19 回	高齢者の生活機能を整える看護④ 摂食嚥下障害	【講師】摂食嚥下障害看護認定看護師 早川 貴司 先生
第 20 回 第 21 回	演習 A 摂食嚥下, B 事例検討④ B 事例検討④, A 摂食嚥下	摂食嚥下: 嚥下食, 口腔ケア 事例検討: 看護目標, 看護計画
第 22 回	治療を必要とする高齢者の看護④ 入院環境・退院調整	入院環境, 退院調整・退院支援
第 23 回	生活・療養の場における看護 施設・ 家族・介護者	介護保険施設における看護, 在宅療養 支援, 介護負担
第 24 回	エンドオブライフケア	エンドオブライフケア 意思決定への支援, ACP 【講師】看護師 沼崎 美津子 先生
第 25 回	高齢者の災害看護	【講師】看護師 安井 清孝 先生
第 26 回 第 27 回	高次脳機能障害, 失語症	【講師】言語聴覚士 鈴木 千恵 先生
第 28 回	認知機能障害のある高齢者の看護 認知症①	認知症の病態と診断・治療 【講師】医師 川勝 忍 先生
第 29 回	認知機能障害のある高齢者の看護 認知症②	認知症の歴史, 認知症のアセスメント
第 30 回	認知機能障害のある高齢者の看護 認知症③	認知症の看護のポイント, 非薬物療法
第 31 回	事例検討⑤	在宅療養中の高齢者のアセスメント
第 32 回	認知機能障害のある高齢者の看護 認知症④	認知症高齢者と家族介護者の心理 【講師】臨床心理士 加藤 善和先生
第 33 回	認知機能障害のある高齢者の看護 認知症⑤	【講師】 認知症看護認定看護師田辺晃子先生

区分名： 看護実践応用となる科目

科目名（英語名称含む）：精神の健康障害をもつ人の看護（Psychiatric Nursing）

教員名：大川貴子・佐藤利憲・田村達弥・吾妻陽子

開講年次：3年次，学 期：2020年度 前期 ，必修／選択：必修

授業形態：講義・演習 ，単位数：3単位 ，時間数：60時間

概要：精神の健康上の問題をもつ人に対してどのようにアプローチしたらよいかを考えられるよう、講義および演習を行なう。また、ライフサイクルの中で出会う様々なメンタルヘルスの問題についてもアプローチできるよう、グループワークを中心に展開していく。看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

1. 精神の健康問題をもつ人が体験する世界について理解する。
2. 精神医療の歴史と法律および倫理について理解する。
3. 精神看護を実践するための枠組みを理解する。
4. 主要な精神疾患の病理・症状・看護のポイントについて理解する。
5. 地域で生活する精神障害者の支援方法を理解する。
6. セルフケアのアセスメントおよびケアプランの作成ができる。
7. メンタルヘルスの問題に関する心理社会的要因について理解する。
8. メンタルヘルスの問題を抱えた人への支援方法や社会資源を理解する。
9. メンタルヘルスの問題を抱えた当事者または家族の相談に応じるために求められる技術を習得する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せること
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		

		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		が単位認定の要件である
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュ	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		

	コミュニケーション	③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		認定の要件である
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	-	習得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な問題解決に知識を応用することができる
		②	人間の理解を深める科目		

		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		することが 単位認定の 要件である
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	○	模擬的な問題解決に知識を応用することができることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	○	模擬的看護を実践できることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		

		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	○	理解と計画立案が単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	○	計画と立案が単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：指定しない

参考書：開講時に提示する

成績評価方法：最終試験：60%

事例展開：20%

メンタルヘルスに関するアプローチ(グループワーク・発表)の取組み:20%

(他グループの学生からの評価:10%・教員からの評価:10%)

その他(メッセージ等)：精神の健康問題について、時には自分にひきつけ、時には自分と距離をおいて考えていきましょう。精神看護の奥の深さを感じとってもらえると嬉しいです。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	オリエンテーション	
第2回	精神の健康問題をもつ人の理解	ピアサポーターによるリカバリーストーリーの発表
第3回	精神の健康問題をもつ人の理解	ピアサポーターによるリカバリーストーリーについてグループワーク
第4回	精神医療の歴史	社会的背景・わが国の精神保健医療福祉の現状
第5回	精神医療における倫理	精神保健に関する法律・人権擁護
第6回	精神看護の枠組み	セルフケア・リカバリー・ストレングス・対人関係論
第7回	セルフケアに焦点をあてた事例展開①	事例に関する疑問・質問についてグループワーク
第8回	精神療法および心理的療法と看護	精神療法・心理社会的療法
第9回	精神科における薬物療法と看護	向精神薬・服薬管理
第10回 第11回	統合失調症患者へのアプローチ	統合失調症について疾患・治療の理解
第12回	セルフケアに焦点をあてた事例展開②	セルフケア要素のアセスメントについてグループワーク
第13回	セルフケアに焦点をあてた事例展開③	セルフケア要素のアセスメントの解説
第14回 第15回	統合失調症患者へのアプローチ	統合失調症患者への代表的なアプローチ方法
第16回 第17回	セルフケアに焦点をあてた事例展開④	アセスメントのまとめと援助の方向性についてグループワーク

第18回 第19回	地域で生活する精神障害者へのアプローチ	訪問看護・ACT・アウトリーチ・精神保健福祉制度
第20回	セルフケアに焦点をあてた事例展開⑤	アセスメントのまとめと援助の方向性についてグループワークの解説
第21回	セルフケアに焦点をあてた事例展開⑥	必要と考えられる具体的な援助についてグループワーク
第22回	セルフケアに焦点をあてた事例展開⑦	必要と考えられる具体的な援助の解説
第23回	地域で生活する精神障害者へのアプローチ	訪問看護およびアウトリーチの実際
第24回	地域で生活する精神障害者へのアプローチ	グループワーク
第25回 第26回 第27回	気分障害患者へのアプローチ	気分障害（うつ病・双極性障害）患者の理解・アプローチ方法
第28回	自閉症スペクトラム患者へのアプローチ	自閉症スペクトラム患者の理解・アプローチ方法
第29回	パーソナリティ障害患者へのアプローチ	パーソナリティ障害患者の理解・アプローチ方法
第30回	アルコール依存症患者へのアプローチ	アルコール依存症患者の理解・アプローチ方法
第31回 ～ 第36回	メンタルヘルスに関するアプローチ	グループワーク
第37回 ～ 第44回	メンタルヘルスに関するアプローチ	グループ毎の発表
第45回	メンタルヘルスに関するアプローチ セルフケアに焦点をあてた事例展開	教員の講評  事例展開の解説

区分名：看護を統合する科目

科目名（英語名称含む）：看護研究方法論とその活用

(Nursing research methodology and application)

教員名：篠原好江

開講年次：3年次，学期：2020年度 前期，必修／選択：必修選択

授業形態：講義，単位数：2単位，時間数：60時間

概要：看護研究に用いられる方法論に関する基礎的な知識を学び、看護の対象、看護者、対象と看護者との相互に関する疑問を探求し、看護実践において看護研究を活用できる能力を培う。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

- 1) 看護研究の意義および目的について学ぶ。
- 2) 研究設計と研究方法について学習する。
- 3) 看護研究における倫理的配慮について理解する。
- 4) 研究論文の吟味について学習する。
- 5) 研究論文の活用について学ぶ。

行動目標：

- 1) 看護研究の意義および目的が説明できる。
- 2) 研究設計に基づいた質的研究方法について述べることができる。
- 3) 研究設計に基づいた量的研究方法について述べることができる。
- 4) 看護研究における倫理的配慮について理解することができる。
- 5) 看護論文の内容を理解し、それを要約することができる。
- 6) 研究論文の長所、短所を吟味することができる。
- 7) 文献の種類、論文としての構成について説明できる。
- 8) 文献を検索することができる。
- 9) 研究論文の知見の看護実践への活用について考えることができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム	科目達成レベル
1. プロフェッショナル	
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。	

1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模倣的に示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模倣的に示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模倣的に示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	態度、習慣、価値観を模倣的に示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	◎	実践できることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		

3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		

		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	修得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	<del>看護実践の応用となる科目</del>	○	模擬的な場 に知識を応用できる ことが単位認定の要件である
		②	<del>看護の実践</del>		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		

		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					

1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	◎	実践できることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：指定しない

参考書：講義中に示す

成績評価方法：講義（50点/課題（適宜）および出席状況）、ゼミ（50点/レポート30点、参加度20点）

その他（メッセージ等）：将来、積極的に研究に取り組んでいくためにもこの科目で看護における研究の基礎を学びましょう。自己学修において沢山の論文に触れ、また、課題学習やゼミを通して「わかった」経験を増やしていきましょう。

\*講義内容・予定は変更することがあります。

#### 授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	オリエンテーション 看護研究とは	看護における研究の意義・目的 看護研究の定義 研究と看護実践
第2回	看護研究の構成と論文	看護研究の構成 論文の種類 論文の構成 論文の書き方
第3回	演習：文献検索の方法と実際①	文献検索と文献検討 検索方法 データベース 文献カードの目的と方法
第4回	演習：文献検索の方法と実際②	リサーチクエスチョンをもとに文献カードの作成
第5回	研究過程：研究目的と研究方法	研究目的 研究方法（デザイン）と種類、 研究目的に応じた研究デザイン
第6回	研究計画書	研究計画書の意義と構成 研究における倫理 利益相反
第7回	量的研究	量的研究の種類と研究方法 量的研究の プロセス 量的研究のデータ収集と分析
第8回	質的研究	質的研究の種類と研究方法 質的研究の プロセス 質的研究のデータ収集と分析
第9回	研究論文のクリティーク	研究論文のクリティークとは 目的と方法 クリティーク・ガイドライン

第10回	研究結果・成果の活用	研究成果の公表方法 看護実践への活用 量的研究成果の実際 質的研究成果の実際
第11回	研究論文のクリティークのゼミ (それぞれの看護学部門ごとに 開講する)	研究論文のクリティーク
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

区分名：看護実践の応用となる科目

科目名（英語名称含む）：助産学Ⅰ Midwifery Ⅰ

教員名：篠原好江、渡邊一代、紺野 愛

開講年次：3年次，学 期：2020年度 後期 ， 必修／選択：選択

授業形態：講義、演習 ， 単位数：単位2， 時間数：30時間（23回）

概要：

助産の基本理念を理解し、助産学の展開について考える。具体的には、助産過程、助産診断、母子保健の動向および関係法規を学習し、助産師の役割と責任について考える。

助産師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

- 1) 助産の基本理念を理解し、助産学の展開について考える。
- 2) 助産過程及び助産診断の目的を理解し、その意義を学ぶ。
- 3) 助産及び母子保健の変遷を理解する。
- 4) 助産師の役割と責任を理解する。
- 5) 助産及び助産師のあり方を考察する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	看護実践の場で看護職者と

		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		しての態度、習慣、価値感を示せることが単位認定の要件である
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	◎	実践できることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					

1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基礎となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		

2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場 に知識を応 用できるこ とが単位認 定の要件で ある
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	○	模擬的な場 に知識を応 用できるこ とが単位認 定の要件で ある
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		

#### 5. 看護の実践

人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	○	模擬的な場 に知識を応 用できるこ とが単位認 定の要件で ある
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		

		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会があるが

		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。	単位認定に関係ない
--	--	---	-------------------------------------	-----------

テキスト：

工藤美子編：助産師基礎教育テキスト第1巻 2020年版 日本看護協会出版会

吉沢豊予子編：助産師基礎教育テキスト第2巻 2020年版 日本看護協会出版会

成田伸編：助産師基礎教育テキスト第3巻 2020年版 日本看護協会出版会

堀内成子編：助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ 医学書院. 2020

横尾京子編：助産学講座6 助産診断・助産技術学Ⅱ〔1〕妊娠期 医学書院. 2020

参考書：

成績評価方法：課題発表とレポート

その他（メッセージ等）： 助産とは？ 助産学とは？ 助産師とはどんな仕事をする人で、どんな役割があるのでしょうか？ ここでは助産師の基本から学習します。

#### 授業内容(学習項目) (23回)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	助産の概念	助産とは、助産の対象
第2回	助産師の専門職性と業務	助産師とは、助産師業務、助産師の倫理綱領
第3回	助産師の専門職性と業務	助産師とは、助産師業務、助産師の倫理綱領
第4回	助産師と倫理	助産師の倫理綱領
第5回	助産学研究	助産師の倫理綱領、助産実践と研究
第6回	人間のセクシュアリティ	人間の性と基本的人権、価値と多様性
第7回	助産過程と助産診断	助産過程、助産診断と診断類型
第8回	助産過程と助産診断	助産過程、助産診断と診断類型
第9回	助産過程と助産診断	妊娠期・胎児期の助産過程
第10回	助産過程と助産診断	分娩期の助産過程
第11回	助産過程と助産診断	産褥期・新生児期の助産過程
第12回	助産過程と助産診断	女性のライフサイクルにおける助産過程
第13回	日本と諸外国における助産の変遷	課題発表
第14回	日本と諸外国における助産の変遷	課題発表
第15回	日本と諸外国における助産の変遷	課題発表
第16回	日本と諸外国における助産教育	課題発表
第17回	日本と諸外国における助産教育	課題発表

第 18 回	日本と諸外国における助産教育	課題発表
第 19 回	母子保健の動向と関係法規	課題発表
第 20 回	母子保健の動向と関係法規	課題発表
第 21 回	母子保健の動向と関係法規	課題発表
第 22 回	妊産婦を対象としたコミュニケーション技術	課題発表
第 23 回	妊産婦を対象としたコミュニケーション技術	課題発表

区分名：看護実践の応用となる科目

科目名（英語名称含む）：助産学Ⅲ MidwiferyⅢ

教員名：渡邊一代、森美由紀、非常勤講師

開講年次：3年次，4年次 学 期：2020年度 前期 ，必修／選択：選択

授業形態：講義、演習 ，単位数：2単位 ，時間数：60時間（45回）

概要：

分娩を終了した女性および新生児の健康を診断し必要なケアを提供するとともに、母親と新生児を含む家族が新しい役割取得ができるよう援助するために、診断およびケア技術を学習する

助産師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

1. 産褥期の助産診断と支援

- 1) 産褥期の身体的、心理的、社会的特徴を理解する。
- 2) 産褥ケアに求められる実践能力を理解する。
- 3) 産褥期の助産診断の視点を理解する。
- 4) 産褥期の診断に必要な情報と診査方法を理解する。
- 5) 褥婦と家族への支援を考える。
- 6) 産褥期の助産診断を展開する。

2. 新生児の助産診断と支援

- 1) 新生児期の助産診断を理解する。
- 2) 新生児期の助産診断における助産師の役割を理解する。
- 3) 新生児期の生理的適応過程のアセスメントの視点とケアを理解する。
- 4) 新生児期の助産過程を展開する。

3. 産褥期の異常

- 1) 産褥期に起こりうる異常の病態、診断、治療について理解する。

4. 女性のライフサイクル

- 1) ライフサイクル各期における女性の身体的、心理的、社会的特徴を理解する。
- 2) ライフサイクル各期における助産診断の視点と助産師の役割を理解する。
- 3) リプロダクティブ・ヘルス／ライツを基本とした援助の方法が考えられる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム	科目達成レベル
1. プロフェッショナル	

看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	看護実践の場で看護職者としての態度、習慣、価値感を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	◎	実践できることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		

3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基礎となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		

		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場 に知識を応 用できるこ とが単位認 定の要件で ある
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	○	模擬的な場 に知識を応 用できるこ とが単位認 定の要件で ある
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	○	模擬的な場 に知識を応 用できるこ とが単位認 定の要件で ある
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		

		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					

1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会があるが単位認定に関係ない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：

- 吉沢豊予子編：助産師基礎教育テキスト第2巻 2020年版 日本看護協会出版会  
 森恵美編：助産師基礎教育テキスト第4巻 2020年版 日本看護協会出版会  
 町浦美智子編：助産師基礎教育テキスト第5巻 2020年版 日本看護協会出版会  
 横尾京子編：助産師基礎教育テキスト第6巻 2020年版 日本看護協会出版会  
 小林康江編：助産師基礎教育テキスト第7巻 2020年版 日本看護協会出版会  
 堀内成子編：助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ 医学書院. 2020  
 横尾京子編：助産学講座6 助産診断・助産技術学Ⅱ〔1〕妊娠期 医学書院. 2020  
 我部山キヨ子他編：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期 医学書院. 2020  
 横尾京子編：助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期 医学書院. 2020

成績評価方法：課題提出・発表、演習、筆記試験

授業内容(学習項目)

1. 産褥期の助産診断と支援 (24回)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1～6回	産褥期の助産診断	産褥期の経過、産褥期の助産診断
第7～9回	産褥期の支援	産褥期のケア
第10～12回	事例展開	産褥期の助産過程の事例展開
第13～15回	産褥期の支援	産後一ヶ月までの家庭訪問
第16～18回	産褥期の支援	乳房ケア
第19～24回	産褥期の支援	家族計画に関する支援

2. 新生児の助産診断と支援 (11回)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1～3回	新生児期の助産診断	新生児の特徴
第4～5回	新生児期の助産診断	新生児期の助産診断
第6～8回	新生児期のケア	出生後24時間以内のケアとその後のケア
第9～11回	事例展開	新生児期の助産過程の事例展開

### 3. 産褥期の異常 (4回)

回数	項目	内容 (キーワード等)
第1～4回	産褥期の異常	産褥期の異常

### 4. 女性のライフサイクル (6回)

回数	項目	内容 (キーワード等)
第1～6回	女性のライフサイクル	思春期にある人の助産診断とケア 成熟期にある人の助産診断とケア 更年期にある人の助産診断とケア 健康問題を抱えた人の助産診断とケア

区分名：急性期にある人の看護学実習

科目名（英語名称含む）：（Adult Nursing (Acute) Practicum）

教員名：脇屋友美子 佐藤菜保子 菅野久美 片桐和子

開講年次：3年次，学期：2020年度 後期，必修

授業形態：講義演習実習，単位数：2単位，時間数：90時間

概要：急性期にある成人から老年期の人を対象とし、主に周術期における看護展開について実習を通して学ぶ。実習に臨んでは、既習の科目を振り返り、対象の看護を実践するにあたり必要な知識および技術を復習・確認する。

実習目的：健康障害をもち、手術療法を受ける人やその家族を多面的に理解し、患者とその家族との人間関係を基盤に、問題解決の系統的アプローチを通して、手術侵襲に伴う変化への対応と心身の回復・社会生活への適応がはかれるように看護を実践する能力を養う。看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

1. 手術療法に関するストレス・危機状態にある患者・家族を擁護し、回復に向けた患者・家族の意思決定を支えることができる。
2. 手術や麻酔侵襲による対象の病態生理的变化を理解し、身体的苦痛の緩和や合併症を予防し、早期回復するための援助ができる。
3. 手術療法によって変化した身体の形態・機能、それに伴う生活の変化を理解し、生活能力の獲得のために保健医療チームと共同して社会資源の活用についての援助ができる。
4. 患者の健康の保持増進をめざして、保健医療チームの一員としての働きかけができる。
5. 患者・家族との適切な人間関係を築くことができる。
6. 目的意識を持って実習を行い、自己学習能力を養い、根拠のある看護実践ができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	看護実践の場で看護職とし

		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		での態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である。
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である。
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である。
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である。
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せること
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		

		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		が単位認定の要件である。
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					

			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である。
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である。
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		

		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリス		

			コミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：適宜提示・紹介する。

参考書：適宜提示・紹介する。

成績評価方法：急性期にある人の看護学実習要項を参照のこと。

その他（メッセージ等）：急性期にある人の看護学実習では、周術期にある患者を受け持ちます。周術期にある患者は、日々・時間ごとの状態変化が速い・大きいという特徴があります。実習目的に関連した授業内容についてしっかり復習を行い、実習に臨みましょう。実習は臨地で生の現実での学びであるため、また、易感染状態の患者様と関わるため学生自身の体調管理が重要となります。

#### 授業内容(学習項目)

手術を受ける患者を1～2名受け持ち、周術期看護の看護過程を展開する  
詳細は急性期にある人の看護学実習要項を参照のこと。

区分名： 看護の実践

科目名（英語名称含む）：慢性疾患をもつ人への看護学実習（Adult Nursing (Chronic)Practicum)

教員名： 井上水絵，横山郁美，他

開講年次：3年次，学 期：2020年度 後期 ，必修/選択：必修

授業形態：実習 ，単位数：2単位 ，時間数：90時間

概要：長期にわたる疾病管理が必要で、治癒することが困難な慢性疾患及び機能障害を持つ、成人期または老年期にある患者と家族に対し、慢性疾患の特徴を理解し、全体像をとらえ、看護上の問題点および必要な看護支援を修得する。看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

実習目的：慢性的な健康問題を持つ患者の、身体的、精神的、社会的な影響を理解し、生涯にわたって必要となるセルフマネジメントの獲得を支援し、生活の再構築し、QOLの維持・向上を計るために必要な看護に関する知識と実践能力を修得する。

実習目標：

1. 慢性疾患を持つ患者と家族の特徴を理解し、身体的・精神的・社会的側面を多面的にとらえ全体像を把握し、看護上の問題点を述べることができる。
2. 慢性疾患の病態、検査、治療経過について理解し、疾病や障害をコントロールするために必要な看護支援（セルフケア能力維持・向上、指導、合併症予防）について考えることができる。
3. 慢性疾患をもつ患者とその家族へ必要な看護支援の実際を理解し、到達目標を明確にし、看護過程の計画・実践・評価をすることができる。
4. 慢性疾患・機能障害をもつ患者の治療や生活支援に関わる保健医療チームの役割と必要な社会資源を理解し、連携のありかたについて学ぶことができる。
5. 慢性疾患における看護実践を通じて自己の行動を振り返り、看護者としてのあり方や看護観について学ぶことができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム	科目達成レベル
1. プロフェSSIONAL	
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。	

1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	看護実践の場で看護職者としての態度、習慣、価値感を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	同上
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	同上
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	同上
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		

		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である。
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		

		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					

1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト： 特に指定しない

参考書： 特に指定しない

成績評価方法： 慢性期にある人の看護学実習要項を参照のこと。

その他（メッセージ等）： 健康レベル、ADLのセルフケア能力、疾患など、多用で疾病のコントロールのために入院して療養生活を送る成人期もしくは老年期にある人を対象として、看護実習を展開します。患者様およびその家族が病みの軌跡と共に生活する過去、現在、未来を把握し、その人を包括的にとらえ、必要な看護支援を見出す実習になります。熟考しながら進める実習になりますので、心身ともに学習準備をして臨んでください。

区分名：看護の実践

科目名（英語名称含む）：母性看護学実習（Maternity Nursing: Practicum）

教員名：篠原好江、他

開講年次：3年次，学 期：2020年度 後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義演習実習 ， 単位数：2.0単位 ， 時間数：90時間

概要：

母性看護の理念をふまえ、マタニティサイクル（妊娠・分娩・産褥・新生児の各期）にある女性とその家族に対するケアが実践できるための基礎的能力を養う。

助産師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

- (1) 妊娠・分娩・産褥期及び胎児・新生児期の経過を関連づけて理解する。
- (2) 対象への関わりを通して対象が体験していることを理解する。
- (3) 対象の主体性を尊重したケアを実践する。
- (4) 家族メンバーの誕生がもつ意義を理解する。
- (5) 母子や家族をとりまく環境を理解する。
- (6) 対象の多様な価値観を理解する。
- (7) 必要なサポートシステムについて考える。
- (8) 母子ケアを行う際の倫理的課題について考える。
- (9) 母子保健チームにおける看護者の役割を理解する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム		科目達成レベル	
1. プロフェッショナル			
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。			
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。
		◎	看護実践の場で看護職者としての態度、習慣、価値感を示せることが単位認定の要件である

2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	●	実践できることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュ	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基礎となる態度、スキルを示せることが単
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		

	ニケーション	③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		位認定の要件である
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認
		②	人間の理解を深める科目		

		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		定の要件である
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		

		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会があるが単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	○	理解と計画立案が単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：母性看護学実習要項、配布資料

参考書：

成績評価方法：実習評価表に基づき評価

その他（メッセージ等）：

実習中の援助を通して、学内の講義や演習等では得られない創造的な発見や多くの感動を体験し、生命の誕生に立会い家族の新しい一員を迎えるプロセスに関わることは、一人の人間としても貴重な体験になる。この体験が自己の母性・父性の性徴につながることも期待する。

授業内容(学習項目)

臨地実習：県内3～4施設において実習をする。(10月～2021年1月)

- (1) 産褥早期の母子を受け持ち母子のケアを実践する。
- (2) 出生直後の児のケアを見学実習する。
- (3) 妊婦健診の関わりを通して妊娠期のケアを見学実習する。
- (4) 母親学級や小集団指導などの保健指導を見学実習する。
- (5) 機会があれば分娩期のケアを見学実習する。
- (6) 機会があれば退院後の産褥期・新生児期の健康診査及を見学実習する。

区分名：看護の実践

科目名（英語名称含む）：健康障害をもつ子どもの看護学実習（Child Health Nursing Practice）

教員名：和田久美子，古溝陽子，鈴木学爾，女池朝子，金澤久美

開講年次：3年次，学 期：2020年度 後期 ，必修／選択：必修

授業形態：実習 ，単位数：2単位 ，時間数：90時間

概要：健康障害を持つ子どもとその家族のアセスメントの実際について学習するとともに、それに基づいてケアの計画を立案し、子どもとその家族に対して必要な看護援助を行う。

後日、詳細を提示する。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

1. 対象とする子どもや家族に対し、看護者としての積極的な関心をよせながら、対象者との相互作用を通して、対象を深く理解する。
2. 看護の一連のプロセスを踏む中で、子どもとその家族に対して援助を行う。
3. 健康障害をもつ子どもとその家族の現状を理解し、小児看護の役割を考える。
4. 看護専門職者としての、自己のあり方考える。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		

				単位認定の要件である
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎ 看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。	
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。	
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎ 看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎ 看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。	
2. 生涯学習				
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。				
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	◎ 看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。	
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	

		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		単位認定の要件である
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観を	①	感性を高める科目	◎	看護実践の場で看護職

	もつ看護専門職者	② 倫理性を高める科目		としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
		③ 論理的思考能力を高める科目		
		④ 表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	① 社会の理解を深める科目	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
		② 人間の理解を深める科目		
		③ 人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④ 看護の基本となる科目		
		⑤ 看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	① 看護実践の応用となる科目	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
		② 看護の実践		
		③ 看護を統合する科目		
5. 看護の実践				
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。				
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	① 人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単
		② 人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		

		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		位認定の要件である
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	習得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		

		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。	
7. 看護学発展への貢献				
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。				
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	◎
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。	
看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である				

テキスト：随時提示する。

参考書：随時提示する。

成績評価方法：実習への参加態度、実習記録およびレポートを総合して評価する。

その他（メッセージ等）：「成長発達に合わせた健康の維持・増進に関する看護Ⅰ・Ⅱ」、「健康障害をもつ子どもの看護」など、小児のケアに関連する内容について復習して臨んで下さい。

区分名：看護の実践

科目名（英語名称含む）：精神の健康障害をもつ人への看護学実習（Nursing Practice for Psychiatric Patient）

教員名：佐藤利憲・田村達弥・吾妻陽子・大川貴子

開講年次：3年次，学 期：2020年度 後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：実習 ， 単位数：2単位 ， 時間数：90時間

概要：精神の健康上の問題のために生活を行ううえで困難を抱えている人を対象に、セルフケアの視点からその人を包括的に捉え、その人のストレングスを活かし、リカバリーを目指す援助のあり方を検討する。また、精神の健康障害をもつ人と関わるプロセスを通して自分自身を見つめながら、その人への関心を持ち続け、関係を築いていくことを目指す。看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

- 1) 精神の健康障害をもつ人と場をともにすることができる。
- 2) 精神の健康障害をもつ人との関わりの中で自分自身をみつめることができる。
- 3) 関わりの中で生じた精神の健康障害をもつ人の反応を捉えることができる。
- 4) 現在に至るまでのプロセスをふまえながら、精神の健康障害をもつ人を理解することができる。
- 5) 精神の健康障害をもつ人の疾患について理解することができる。
- 6) 精神の健康障害をもつ人が自分の状況をどのように受け止めているのかを理解することができる。
- 7) 精神の健康障害をもつ人が自身の「これから」についてどのように思い描いているかを知ろうとしながら関わるすることができる。
- 8) 精神の健康障害をもつ人のセルフケアについて、その人の力に焦点を当てながらアセスメントすることができる。
- 9) セルフケアのアセスメントに基づき、その人のストレングスを活かし、リカバリーを目指した援助を考えることができる。
- 10) 精神の健康障害をもつ人が地域で生活する上で必要となるサポートについて考えることができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	臨床の場で看護師としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	臨床の場で看護師としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である。
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	臨床の場で看護師としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である。
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	臨床の場で看護師としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である。
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					

看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示すことが単位認定の要件である。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示すことが単位認定の要件である。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示すことが単位認定の要件である。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		

		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	◎	実践の場で問題解決に知識を応用できることが単位認定の要件である。
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					

人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	○	模擬的な場で実践できることが単位認定の要件である。
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	○	理解と計画立案が単位

		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		認定の要件である
2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	-	修得の機会がない。
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	○	理解と計画立案ができることが単位認定の要件である。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：指定しない

参考書：指定しない

成績評価方法：実習での患者との関わり様子、カンファレンスでの発言内容、記録の内容、および、目標に対する学生の自己評価を踏まえ、目標に対する到達度で評価する。

その他（メッセージ等）：対象に関心を向けながら関わり続けることで、皆さんの中に様々な疑問や気づきが生まれてきます。こうした、実習を通して皆さんが体験すること全てが学びの源泉です。対象と向き合うだけでなく、自己とも向き合いながら、学んでいきましょう。

授業内容(学習項目)：実習初日は、精神障害者が利用している福祉施設にて実習を行い、地域で暮らす精神障害者を支える取り組みについて学習する。実習 2 日目より精神科の病棟にて1名の患者を受け持ち、患者に関心を向けながら関わるプロセスの中で、患者のリハビリを視野に入れながらセルフケアについてアセスメントし、必要な援助について検討していく。実習最終日は、学内カンファレンスを行い、他の施設で実習を行なった学生と共に、学びを深めていく。